

# 浦臼町

## 歴史建物地図



Historical  
Architectural  
Map

浦臼町には明治から昭和初期にかけて建てられ、まちの発展を支えてきた建物が残されています。その中で浦臼市街にあるものをマップにしました。これ以外の建物も含めて裏面で紹介しています。

また、町内には日本で最も広いワイナリーのぶどう畑や、日帰り登山ができる浦白山や隈根尻山、かつて暴れ川であった石狩川の置き土産である三日月湖など、見ていただきたい自然も多くあります。

是非マップを片手にご覧ください。

←至 晩生内地区

太田勉強堂



聖園教会



木骨石造倉庫



(えみろ)

ふれあいステーション  
(旧浦臼駅)

館



浦臼町役場

ローソン  
浦臼町店

国道 275 号線

至 鶴沼地区→

尾花商店



笹島邸



浦臼郵便局



浦臼町には珍しい「木骨石造」など、たくさん歴史の価値ある建物が残っているの。ゆっくりみてまわるのも優雅じゃないかしら♡



友成邸  
浦臼神社  
石造倉庫 (JA)  
木骨石造の蔵

## 浦臼町と札幌軟石

### ■札幌軟石が使われることになった契機

すでに解体されてしまったものもありますが、浦臼町に札幌軟石を使った建物が多く建てられました。その契機となったのが大正 15 年に中心市街地で発生した大火です。この大火によって市街の木造建物は焼失してしまいましたが、右でも紹介している尾花商店の木骨石造の蔵が燃えずに残りました。それで、その後の市街地の復興にあたっては、火災に強い札幌軟石の建物が多く建てられました。

### ■札幌軟石の運搬

昭和 10 年に札幌線（札幌―石狩沼田）が開通するまでは、札幌軟石は石狩川の水運を使って運ばれました。当時の石狩川は激しく蛇行していたので、運搬距離も長く大変な仕事であったと思われます。

### ■木骨石造

木骨石造は木造骨組みの外側に、厚さ 15cm 程度の軟石を積み上げた構造で、小樽運河の石造倉庫も同じ構造です。木柱と軟石は「手違いかすがい」という金物で緊結しています。



## 木骨石造倉庫（えみる）

建築年：昭和初期  
構造・規模：木骨石造平屋建

かつて札幌線（札幌―石狩沼田）の主要駅の前に建てられた農業倉庫のひとつで、浦臼町では最後の 1 棟です。米をはじめとした農作物を鉄道で運搬するための保管を目的としていました。

2024 年に多世代交流施設「えみる」として生まれ変わりました。



## 尾花商店

建築年：店舗 昭和 10 年ごろ  
蔵 大正 12 年  
構造・規模：木骨石造 2 階建

町役場の向かいにある木骨石造店舗です。昔は店舗の方は木造でしたが大正 15 年の大火で木骨石造の蔵だけが残り、後に店舗も木骨石造で建てられました。外壁に使用されている札幌軟石は石狩川の水運を使って運ばれました。



## 館（旧浦臼郵便局）

建築年：昭和 10 年ごろ  
構造・規模：木造 2 階建

戦前の「浦臼村」の時代の建物ですが、上げ下げ窓など洋風の外観を取り入れたデザインです。現在はお食事処として活用されています。入ってすぐのカウンターは郵便局時代そのまま、当時を感じさせます。  
(2024 年現在 休業中)



## 聖園教会

建築年：昭和 34 年  
構造・規模：木造平屋建、一部 2 階建

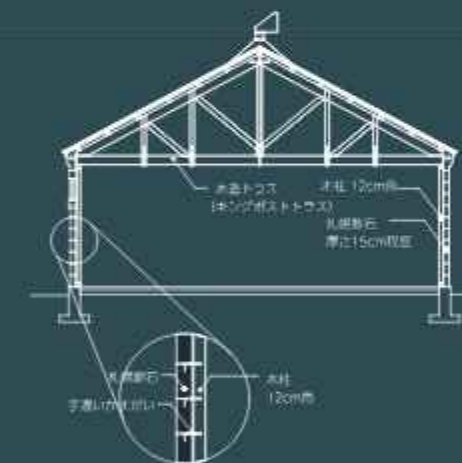
明治 26 年に浦臼に入植した武市安哉らがこの地を「聖園」と名づけて活動を始めたことが礎となっています。この会堂は 4 代目で、道内の有名建築家である田上善也の設計による「札幌北一条教会（1974 年解体）」を真似ています。



## 笹島邸

建築年：大正期  
構造・規模：木造平屋建

築 100 年を越えており、町内で最も古い建物のひとつです。北海道では珍しく、東面側に大きな縁側があることが特徴となっています。写真右側は住居のための和室が配置され、左側は納屋になっています。本州の典型的な農家住宅の形式といえます。



### ■札幌軟石の仕上げ

札幌軟石の表面仕上げにはいくつかの種類があります。町内の軟石建物でも、筋状の凹凸が大きい「ツル目仕上げ」、機械切断したそのままの「平滑仕上げ」、ノミなどで細かい凹凸をつけた「小叩き仕上げ」を見ることが出来ます。



ツル目仕上げ 平滑仕上げ 小叩き仕上げ



## 太田勉強堂

建築年：昭和初期  
構造・規模：1 階 石造  
2 階 木骨石造

子供たちには欠かせない存在の文房具屋でした。こちらの建物にも札幌軟石が使用されています。1 階は石造で厚い軟石を使用しているのに対して、2 階は木骨石造で、軟石の厚さは 1 階の半分程度です。2 階の窓は、当初上げ下げ窓でした。



## 友成邸

建築年：店舗 明治 36 年  
構造・規模：木造平屋建、一部 2 階建

徳島県から入植した友成士寿太郎が 3 年かけて建てたお屋敷です。大工は徳島から連れてきて、材料も徳島から運びました。北海道ではあまり見られない特徴が多数あります。格式高い「庄屋づくり」あるいは「奉行所づくり」と呼ばれる建築様式です。



## 浦臼神社

建築年：昭和 47 年移築  
構造・規模：木造平屋建

この社殿は昭和 47 年に三笠市の幾春別住友奔別神社を移築したもので、社殿自体はより古い年代に建築されています。境内がエゾエンゴサクとカタクリの群生地になっていて、GW 時期にたくさんカメラマンが訪れるスポットです。



## 木骨石造の蔵

建築年：昭和 11 年  
構造・規模：木骨石造 2 階建

徳島県から入植した森川家の蔵で、蔵に隣接して森川翁の「頌徳碑」が建てられています。



## 石造倉庫（JA 農業倉庫）

建築年：昭和初期  
構造・規模：石造平屋建

札幌線開通前に建てられたと思われる建物です。浦臼地区の駅前倉庫は木骨石造ですが、こちらは厚い札幌軟石を積み上げた石造です。この地域の農産物の倉庫として使われていました。

## 浦臼地区

## 鶴沼地区